

彙報

昭和六十三年度

文明学会大会

昭和六十三年十月十九日、東海大学湘南校舎松前記念館において、第七回東海大学文明学会大会ならびに総会が開催された。大会では、東京大学文学部教授、溝口雄三氏をお招きし特別講演をお願いした。また総会においては、会計報告および活動報告が成されそれぞれ承認された。

特別講演

『中国の「封建」と近代』

東京大学文学部教授 溝口 雄三

研究発表

『アルブレヒト・デューラー、自画像の思想史—イミタチオ・

クリスティーの二つの側面—』

東海大学大学院 博士課程 石原 綱成

『アルベール・カミュ、初期作品における「皮肉」「二致」「無関心」について』

東海大学外国語教育センター 講師 惟村 宣明

昭和六十三年度

東海大学文学部文明学科秀作卒論発表会

昭和六十三年六月二十五日、東海大学松前記念館において、第五回秀作卒論発表会が開催され、昭和六十二年度に文明学科各課程に提出された卒業論文の中で、最も優秀な論文の発表が行なわれた。

日本課程 上田 亜紀

「津田梅子、私塾創設に至るまで——手記をもとに考察」

東ア課程 鳥海 英郎

「華洋書信館について——清末の郵便事情を概観しつつ」

南ア課程 寺内みちる

「『エリュトウラー海案内記』にみるローマ帝国の南海貿易とインドのようす」

西ア課程 前田 智子

「『統一と進歩』委員会とトルコ主義運動」

東欧課程 河原 明美

「教科書に見るチェコスロバキアの教育について」

西欧課程 山田 智

「アメリカ人の日本人観」

昭和六十三年度

文明学会月例会

四月例会

木村 玲子（東海大学大学院 文明研究専攻修士課程）

「マヤ文明の周期性に関する一考察」

保田 道雄（東海大学大学院 文明研究専攻修士課程）

「現代機能主義の二面性」

五月例会

山花 京子（東海大学大学院 文明研究専攻修士課程）

「古代エジプト先王朝における西アジアとの交流——王朝成立前段階の一考察——」

石原 綱成（東海大学大学院 文明研究専攻修士課程）

「アルブレヒト・デューラーの自画像Ⅱ——イマゴ・ピエタテイスと Andachtsbild の概念をめぐって」

七月例会

中村 直子（東海大学大学院 文明研究専攻修士課程）

「アテナイの精神的荒廃とプラトンの試み——神観を中心として」

今村 之昭（東海大学大学院 文明研究専攻修士課程）

「中華思想——中国文明の考察に基いて」

十一月例会

中川 久嗣（東海大学大学院 文明研究専攻修士課程）

「L'ACTUALITE ET LA CIVILISATION——シンポジウム・フリーコーの実験理論」

陸路 美礼（東海大学大学院 文明研究専攻修士課程）

「魔女の実像と虚像 デンマークにおける魔女を中心として」

倉田 安里（東海大学大学院 研究生）

「大学生の国語表現力」

十二月例会

林 秀福（東海大学大学院 文明研究専攻修士課程）

「日本と中華民国（台湾）の大学教育について」

池上 正二（東海大学大学院 史学専攻修士課程）

「『大鏡』にみる中関白道隆の人物像——大酒逸話が示すものを中心にみた——」

昭和六十三年度

文明日本課程

文明日本課程 文明学科卒業論文題目

青木 一寛 三浦半島の農業生産と共同出荷について

阿部 真弓 昭和二十年からの日本人の食生活の傾向

荒井 尚子 横浜市における都市農業

池田 敏 怪談の盛衰

石垣 宏之 日本におけるビールの普及

一柳 直孝 スカイラインについて

伊藤 英樹 浦島太郎伝

梅藤 智恵 高杉晋作の思想——上海航海と防長割拠論——

小畑 乙彦 ビートルズについて

笠原恵利香 ハレとケ——群馬の食事とかかあ天下——

香取 大仁 近世の市川と近郊の交通

菊地 智実 江戸の銭湯

北川 陽史 住まいの燈火の変化

小高 太 折口信夫のまればと論

小山 静 我が国の社会福祉と生活保護について

今野 敬 祭りのはなし——浅草三社権現祭礼——

斉藤 広美 横浜の生成発展

島田 哲洋 現行のねぶたに至るまで——ねぶたになるまでの背景——

背景——

須賀 秀明 神奈川県の水資源開発

鈴木 英二 山形県の紅花および紅花染の歴史

内藤 健介 日本人と軟式テニス

中邑 秀次 源信の地獄・極楽思想

萩原 孝 松井田町と板碑の關係に対する考察

蓮沼 邦彦 体罰問題の社会的構造について——体罰肯定の温床を探る——

床を探る——

林 浩樹 晩年の勝海舟について

藤井 健治 日本農耕文化発展にみる新しい日本民族のとらえ方について

増山健太郎 材料にみる食卓の洋風化とその理由——畜肉類・

魚介類・野菜類——

南 英一 都電網の発展と衰退

武藤 裕 横浜市商業の発展と問題点

安田 尚毅 明治十四年の秋田県に於いての御巡幸について

山口 結花 浄瑠璃「八百屋お七」の変遷

吉田 茂 横浜における西洋文化摂取の一樣相——幕末から明治初期の衣生活について——

若林 弘泰 明治・大正期の横浜港における滞貨問題と駅移転

渡辺 一郎 富士川水運における御廻米輸送

渡辺 浩行 大正時代における食事

関谷 憲介 江戸から明治への東京における水道事業の展開

秦 幹博 『孫子』と武田流軍学

小林 秀樹 自動車タイヤの歴史と現状

遠藤美和子 平安時代の曆学

黒岩 学 木場の材木商人達の歩み

近 守 河井継之助の改革について

石岡 裕司 『万葉集』の意識についての一考察

伊豆島 聡 坂本龍馬の経済観における一考察

伊藤 克也 日本靈異記説にみる因果応報——現報善悪思想の背景——

背景——

伊藤 順章 野村軍記の藩政改革と稗三合一揆

榎 美恵 日本における米の品種改良の移り変わり

小田裕一郎 近世の宿駅制度による宿馬村の窮乏

梶 理恵 キリスト教の中の日本民族

菊地 裕之 徳川禁令考「火事における法令」の解説及び考察

小瀧 健彦 栃木県氏家町の農業について

小平謙一郎 日本における西洋料理の誕生とその背景

小山 由香 桃太郎の一生における考察——桃太郎断から鬼像

を探索——

関本定一郎 きせるの存在

高橋 由枝 厕所に関する民間信仰——群馬における厕所信仰

仰——

角田 守 上州倉賀野河岸における廻米の集荷範囲と集荷経

路

小林 優子 日本に於ける色彩と民間伝承との関連について

中山 朋恵 部活動に於ける日本人のものの考え方

西原 邦明 たばこ鉄道と秦野産業について

野地真佐美 神奈川県における産育習俗について

橋本 裕之 仙台都市圏の住宅地開発の動向

林田 圭司 参勤交代制にみる大磯の宿小島本陣の利用状況に

ついて

福嶋 秀明 ねぶたとねぶた喧嘩を通して見る津軽人気質

本多 哲也 藩校弘道館と私塾における教育の一考察

三浦由美子 近世においての女子教育と女学校

箕輪 悟史 民衆運動「ええじゃないか」について

山口 俊也 明治初期における横浜水道計画

山口由美子 相州津久井県「土平治騒動」について——伝承と

その影響——

吉田 光男 伝馬騒動について

若山 大輔 鉄砲伝来

渡辺 高志 船橋の稲作と年中行事

江 佳蓉 鄭成功の日本乞師について

中井 淳子 世阿弥の花

西浦 淳一 都市と広告——屋外広告の現状と展望——

増田 恵次 神田川水害

黒木 良作 ナルシズムと三島由紀夫

和知 浩 集団戦闘における足軽らの役割と登用について

東アジア課程

吾妻 昭仁 京城帝国大学設立について——文化政治の意味す

るものとは——

飯盛 俊彦 蘇秦の外交術と評価について

石原 辰彦 関妃暗殺事件における日本政府の関わり

稲葉 秀裕 則天武后と楊貴妃に就いて——その地位を得た原

因を探索——

井本 民希 『電祭』『接神』の起源について——その俗信を

軸に考察する——

宇野 澄 墓葬の確立期における葬法の研究

大本 直春 百五人事件について——裁判経過を中心に——

小野塚玲子 屈原

河西 美佳 満州国における中国人農民と合作社政策について

風岡 輝 日本のアジア進出と鉄道構想

金井あづさ 中国残留日本人孤児の生活状況の探求とその展望

金子 弘美 台湾における「台湾意識」の一考察

小泉 裕子 生活の中の厠について

河内大一郎 日本社会の中で華人のおかされている立場

斎藤 香 『新青年』における思想の分岐点を検証する——

胡適・陳独秀・季大劍——

先川 真二 現代中国における幼児教育の発展と課題

笹島 将智 周の東遷について

佐野 修 東京横浜毎日新聞にみる甲申政変私論

清水 正己 太平天国革命における洪秀全の宗教思想についての考察

高田 敦子 西太後の美容法

高橋 徹 『抱朴子』における断殺について

高松 美枝 唐代婦女における顔の化粧法

鄭 高延 南北朝鮮のソウル五輪体制について

中野 徳子 カンボジアにおける中国の影——中東関係の考察——

新田 禎昭 義和団研究動向と現状

長谷川由佳 豆腐の起源

林田和佳奈 中国唐代における女性の服装について

樋口 拓郎 華夷思想についての一考察

平野 和子 王莽について——偉大な理想主義者——

星 直美 道徳教育における守則

本田 洋一 植民地期に於ける体育政策と柔道

湯口 慶子 周の文王、その王たる性格の変遷——西周から春秋戦国に於ける一考察——

吉田 耕士 一九三〇年前後の中国ナショナリズム国民党と排日運動をめぐる一考察

米本 恭庸 中国におけるスポーツ・体育政策

川島 孝明 中国活版印刷についての考察

繩田 知明 中国のスポーツについて

佐藤広一郎 中国古代の太陽信仰

田中 龍也 霧社事件の真相を探る

田中 博敏 華中西部への日本綿糸の進出とその影響について

戸石 太郎 中国からの茶——その動向についての一考察——

増崎 三信 「官督商弁」企業としての招商局について

山越 忍 関妃暗殺事件について

文明南アジア課程

雨宮 誠 インドの安全保障に果たした非同盟の役割について

伊澤 明彦 子どもと遊びの関わり——日本とインドを比較して——

今井健太郎 インドの野球

大橋 弘美 儀礼の中の模様——ベンガルのプロト儀礼を中心
に——

亀田 繁 インドにおけるインド財閥と民衆

河村 洋子 タゴールの文明論

北村 徹 唯識思想とユング——深層心理学と夢の解釈にお
ける比較——

斎藤健一郎 香辛料貿易の歴史的展開——胡椒を中心として——

鈴木真由美 サリールにみるインド文化

高橋 准 穀霊神話のモチーフ——ムンダ族を中心とし
て——

竹川 健一 日本における南アジア出稼ぎ労働者

田中 陽子 ジャガンナータ寺院におけるデーヴァダーシー

鶴田 敏之 古代インドにおける村落と都市

中村 光一 北インドの古典音楽におけるラーガ

星野 直樹 インドの自動車産業

松崎 高志 中観思想の言語観

三好 潤一 インド幼児教育の現状とその課題

村田 卓次 インド政治における右翼政党について——RSS
を中心にして——

森口 若菜 聖音オーム

田中 達弥 日本リングで活躍したインド人プロレスラー——
もうひとつの日印交流——

文明西アジア課程

赤岡 陽 オスマン海軍における火器の発達

新井 弥生 マムルーク朝時代の都市の内部集合体

荒川 達哉 一九六七年以後のヨルダン川西岸及びガザ地区の
状況

飯島 知 シオニズムの歴史

石村 恵子 革命後エジプトの高等教育

伊豆 暁美 近代エジプトにおける婦人解放運動の問題点

伊原 禎雄 パレスチナにおけるユダヤ人によるアラブ人差別

大藤 薫 トトメス三世の「アジア遠征」

小川 智子 イブン・シーナーの「救済の書」における靈魂論

とアリストテレスの靈魂について

蔵原 佳子 スコーティに見られる伝統的宇宙論

相馬 由加 アイニのとらえたブハラにおける教育

高橋 千穂 一四・一五世紀のブラーラーク

西山 毅 パレスチナの平和への条件

野崎 美樹 東南アジアへのイスラムの伝播について——その
起点と経路を中心に——

平井 英子 Kirghizの英雄叙事詩『Manas』

牧 義博 ムハンマドとユダヤ教

三浦久美子 近現代エジプト社会の女性差別に対する運動

三木 吉晴 西アジアにおける黒曜石の交易について…七五〇

宮崎 卓 シャイバーン朝四王家分立状態の確立

山岸 千恵 ゾロアスター教を中心とする宗教的世界

良本 典代 モロッコの聖者崇拜 Tanadita に見られるジン

と人間との依存関係

渡辺 徹 一六・一七世紀ムスリム都市におけるコーヒー

村上 顕裕 イクター制の研究

失崎 誠 オスマン朝初期の征服活動(オスマン・オルハン

時代)

吉村 維修 中世イスラムの通商史

文明東欧課程

内田 剛 ロシア革命とムスリム・ナシヨナリズム——中央

ムスリム軍事参与会について——

馬越 洋子 パステルナークとドクトル・ジバゴ——ノーベル

賞問題をめぐって——

大木 洋幸 ポーランド・ルネッサンス——その時代背景よ

り——

太田 勝能 キリスト教教理論争とネストリウス派の東方伝

播

大竹 千晶 ソ連における社会保障制度の発達とその歴史的背

景——歴史と現状——

荻野幸千恵 ユーゴスラビアのフォークダンス——コローにつ

いて——

尾崎真由美 ロシア革命の中のアメリカ人ジョン・リード

折原 邦男 ソビエト経済と日本経済の比較

笠木 真吾 「レーニンの半生」——生いたちより革命家とな

るまで——

鎌倉 巧 チェコスロバキアの建国にみるマサリクとチェコ

軍団

川瀬 正仁 トロツキズムに対する一国社会主義論

大内 貴司 日露戦争について

木村 勝則 ソ連の政治家たち——フルシチョフとブレジネフ

について——

小堀 伸二 ユーゴスラヴィアの民族問題

實光 るみ ボヘミアにおけるフス派のワイジーポディブラド

の支配

志村 直哉 社会主義と音楽芸術

志茂健一郎 ロシア革命時における農村社会の集団化

杉崎 和美 第三のローマモスクワと永遠のローマ理念

相田 文宏 ロシアと日本のフォークロアにおける記述を通し

ての民衆生活の比較

関 富博 五ヶ年計画の目的と成果

土屋 一雄 スターリン——書記長への道——

中込 昌彦 干渉戦争における日本軍のシベリア出兵研究

野口 茂行 ベレストロイカとエネルギー問題

長谷川 毅 ソビエトからの亡命者

三村 敦子 ビザンツ文明のキーエフ・ロシアにおける影響についで

矢ヶ部浩一 戦争と文明について——特に戦争についての考察——

山本 春夫 ロシア革命論——プレスト・リトフスク条約について——

文明西欧課程

赤羽 史代 日本と西ヨーロッパの比較——教科書を通して——

伊沢 明子 天地創造神話におけるヘレニズムとヘブライズムの比較

市川 達三 トマス・モアの『ユートピア』における魅力と欠陥について

岩井 輝彦 ギリシア・パルテノン神殿とエジプト・アモン神殿の比較

内田智香子 ペストの利害——中世を中心に——

奥田 祥子 フランス革命における恐怖政治の性格と意義について

長ヶ部裕児 ナチス党支配について

小原 陽子 アンセルムスにおける罪の思想について

加藤 光弘 ル・デウス・ホモの中から
大英帝国の動揺

河上寛太郎 ギムナジウム制度に関する考察

黄海 育生 ジャンヌ・ダルクと百年戦争

木村 篤 ロンダニーニのピエタ

草薙 聡子 人間の行動をあやつるもの

蔵品 浩平 アメリカの社会が生んだ映画

来栖ひとみ ナチス・ドイツの残した傷跡——第二世代たちのホロコースト——

佐々木勝之 ジャンヌ・ダルク解釈

佐藤美佳子 傀儡説利用説の可能性

菅原 初江 古代ギリシア人と祭り

鈴木 陽子 カザノヴァ論

高橋 聡 世紀末のバリ

田中 将行 フォイエルバッハを通しての信仰と愛について

遠山 秀次 原子力発電の選択

中澤 俊浩 フランシス・ゴルトンの個人差研究について

中島美佐子 C・G・ゴードンとマフディー教徒の乱

名取 紀子 ドイツ公共図書館の成立過程について

西川 暁 アイヌ民族の民間伝承

長谷川順子 イギリス産業革命期における都市労働者の生活環境

原 知子 ヨーロッパにおけるジャガイモの歴史・新しい作物の導入と普及の背景

A・トインビー「歴史における法則と自由」についての考察

平田 聖子 メディチ家の栄光——偉大公ロレンツォの功績——

古澤 聡 終戦直後の教育改革

真壁 伸一 ドイツ統一の英雄——ビスマルクの存在——

松本 圭子 ナチス時代の婚姻法

光安 知彦 アメリカ・フランスと二つのインドシナ戦争

三輪 貴子 戦冠式に象徴されるドイツ統一

森島 志保 ジャパン・ダルク 魔女と聖女の二面性

森本 直之 一七八九 フランス社会

山口 裕一 アメリカン・インディアンと白人に見る、その差別思想について

吉崎千恵子 現代モードの本質

吉永 憲一 不運の共和国——短命だったワイマル共和国——

和田 裕子 現代ドイツに於ける教育の一般的概念及び教育改革の齎した問題点

市川 裕 幕末時における日本捕鯨と欧米捕鯨の関係

鈴木 勝己 ヨーロッパと日本における食文化の相違

後藤 正寿 海軍少佐ゴロヴニンとゴロヴニンの見た幕末期の日本

荒井 健 ヨーロッパにおける兵器の発達

和泉 晃 ジョルダン・ノブルノへの道——ブルノに至るルネサンス精神の継承——

今井 隆友 ラグビーにおけるヨーロッパと日本の比較

上島剛之助 F.SORの FANTASIE——その様式の変遷——

岡田田鶴子 「中欧」——存在しない欧州の光と影——

糟谷 千尋 モータースポーツを支えるもの

榎木 彩子 石の城と木造の城の比較

川原 浩隆 アイルランド問題における文化の二重構造

菊地 淳一 初期スタンダグラスの位置考察(ジャンパーニユ地方とサン・ドニ地方の比較研究)

木村 清一 ルキノ・ヴィスコンティの映画にみられるエロテイズム

国井 秀紀 トキ——自然保護の象徴として——

栗又亜矢子 ヒトラーと秘密結社

小崎 直樹 ギュスターヴ・クルルベ、肖像画におけるメテイ

エの変化——写真術とジャポニスムを中心として——

小林奈緒美 ヘシオドスの「五時代説話」とヒューマニズム

佐々木信也 大統領の評価

佐藤 克哉 リゾート開発にみる現代文明

枝園 和之 現代文明における生物学的死について

鈴木 英之 タバコ史から見たヨーロッパ近代への歩み

高橋いづみ サン・ヴィターレ教会堂のモザイクについて——

その図像学的検討——

立岡 健次 アパルトヘイトの国、南アフリカ

田淵 龍彦 日本の珈琲文化史

- 登内 要 古代エジプトの智慧 ピラミッド
- 長坂あゆみ ハーケン・クロイツとヒトラー
- 成田奈津子 ファッション史におけるシャネルの位置づけ
- 花井 明美 聖フランシスコ・ザビエルの日本来日から退去まで
- 東原 康夫 ジェスチャーの不完全性をめぐって起こる異文化コミュニケーションでの誤解
- 広瀬 尚弘 近代オリンピックの展望——古代と近代のオリンピックの競技種目の比較を通して——
- 堀 和正 ワーグナーの思想はナチズムか
- 松本 勲 一五世紀以前の中央アメリカと南アメリカに成立した都市
- 三谷 明子 日本とフランスでの高齢化社会における女性の自立心の相違
- 宮澤 学 日本人の自我の行方——文明批評としての精神分析——
- 望月 久徳 癌の告知の是非とターミナルケア
- 森島 裕 ルネサンス美術とバロック美術の比較
- 安田 充孝 ヴェトナム戦争によるアメリカ国民の反応
- 横山 和幸 現代社会におけるC.I.の役割
- 関 智雄 フロイトの精神分析との比較によるフランクフルトゴセラピーについて
- 小賀坂昌弘 モーリス・ラヴェル『ステファヌ・マラルメの3